

緒言

2022-2023 年度代表幹事 藤原千沙

学会誌『経済社会とジェンダー』第9巻をお届けします。大橋史恵編集長をはじめとする編集委員の皆様、本誌にご寄稿いただいた執筆者の皆様、査読を引き受けていただいた会員の皆様、編集・印刷・発送作業に携わっていただいた皆様、関係各位のご尽力に厚く御礼申し上げます。

本誌第9巻は前巻に続いて投稿論文の掲載が叶いませんでした。査読審査の過程で掲載に至らないこともあります。査読を経ることで論文内容は各段に改善し、また査読コメントから新たな研究課題が見つかることもあります。本誌はこれからも会員の皆様の研究発表の場としての役割を果たしてまいりますので、引き続き積極的な投稿を期待いたします。

本学会(JAFFE)の大会は2008年の設立以来、東京圏と東海を含む関西圏で交互に開催してきましたが、2023年度大会はJAFFE設立以来はじめて九州・福岡にて開催しました。九州で開催する意義を踏まえて「ローカリティ(地域性)」の問題を検討する共通論題を設定し、刺激的で活発な議論が行われました。本誌には当日の議論を踏まえて報告者3人が書き下ろしてくださった論文が掲載されています。

また2023年度は4月から毎月2回のペースで計27回、フェミニスト経済学ハンドブック(*The Routledge Handbook of Feminist Economics* (edited by Günseli Berik and Ebru Kongar. Routledge, 2021.)) 翻訳・出版プロジェクトのオンライン読書会を開催しました。本誌には院生会員2人による参加報告が掲載されています。毎回、各章のテーマにかかわる専門家にコメンテーターをお願いしたのですが、非会員の専門家も快く引き受けてくださり、JAFFEの翻訳・出版プロジェクトに多大なご協力をいただきました。紙面を借りてあらためまして御礼を申し上げます。

さらに、学会活動ではありませんが、JAFFEの会員である編者3人のもとで、日本ではじめてのフェミニスト経済学のテキストが2023年10月に出版されました(長田華子・金井郁・古沢希代子編『フェミニスト経済学——経済社会をジェンダーでとらえる』有斐閣)。本誌では、編者のお1人から同書の紹介と、会員2人による論評が掲載されています。

2023年度はJAFFEの会員以外にもフェミニスト経済学への関心を広げた年になったかもしれません。関心を寄せてくださった方々と対話や議論を重ね、私たち自身もさらに学んでいきたいと思っております。